



256

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年3月30日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

これまで
これから

戦後80年

変わる産業構造 日本の新たな「敗戦」危機

30日(日)＝1、3面

戦後、日本経済を支えたものづくり。

「失われた30年」で競争力を失い、デジタル化の波に乗り遅れてイノベーションの主演は海外の巨大IT企業に取って代わられました。今また急速に進化する生成AI（人工知能）が産

業構造を変えようとする中で、日本企業は新たな危機に直面しています。

元ソニー社長の平井一夫さん、ファーストリテイリング会長兼社長の柳井正さんら経営者の見方に加え、日本の未来を担う新興企業取材しました。



小売店を模した部屋でテストされる店頭業務支援ロボット

そこが聞きたい

理系に性差はあるか

30日(日)＝くらしナビ面

企業や大学の理工系分野での女性の少なさが課題となっています。女性の理系人材を増やそうと国を挙げての取り組みが進みますが、効果は限定的です。

「理系は男子」のイメージを抱く人も少な

くないと思いますが、中学生の学力調査では、理系科目で女子が男子に劣らないことも判明しました。教育や科学分野の男女格差を研究する河野銀子・九州大教授（教育社会学）に背景を聞きました。



大阪地検や大阪高検が入る
大阪中之島合同庁舎



論点

なぜ検察は暴走するのか

4月4日(金)Ⅱオピニオン面

不祥事をきっかけに取り調べの録音・録画（可視化）が本格化した検察で、威圧的、侮辱的な取り調べが相次いで表面化しています。2024年8月には、取り調べで「検察めんなよ」と怒鳴るなど

した大阪地検特捜部の検事が、刑事訴追される事態にも発展しました。検察官はなぜ、「外部の目」が入っても暴走するのか。取り調べを受けた当事者や弁護士、検察OBに話を聞きました。

特集 ワイド

梯久美子さんと「あんぱん」

31日(月)＝夕刊2面

31日に始まるNHK連続テレビ小説「あんぱん」は漫画家のやなせたかしさん夫妻をモデルとしています。やなせさんの元で働いた経験があるノンフィクション作家、梯久美子さん＝写真＝は

晩年まで親交を続け、伝記を描きました。代表作「アンパンマン」について「死んでも命はよみがえることが本当のテーマではないか」と言います。どういう意味なのでしょう、聞きました。



いよいよ新学期。お子様の進級・進学を控え、何か新しいことに取り組みたいと考えている方も多いのではないのでしょうか。毎日小学生新聞では5月25日まで入学・ご進級キャンペーンを実施中です。期間中に購読をお申し込みの方に、新聞記事のスクラップ専用ノートとプレゼント。続けることで読解力・表現力も身につきます。お申し込みはQRコードから。

毎日新聞

(中村馨)

